

## 報 告 書

京成建設株式会社  
宗吾車両基地整備工場解体工事作業所  
現場代理人菅直哉

## 12月17日昼間作業時の破断ボルトによる飛来について

12月17日 昼間作業 作業内容	宗吾車両基地 整備工場 ・整備工場 3~6通り中柱撤去(午前) ・整備工場 7~8通り屋根撤去(午後)	施工管 菅 誘導 1名 管理 1名 解体工 5名 計 13名
経過 12月17日 9時00分 9時15分 13時 14時45分 15時10分 15時40分 15時45分 15時50分 16時30分 16時40分 16時50分 12月18日 9時30分 14時00分 14時50分 14時55分 16時30分	朝礼 現場代理人菅巡回。 午前中はB通りの中柱撤去作業を実施。 午後作業として7~8通りの屋根解体作業を着手。 現場にテントハウスにてスカイライナーを整備している方から大きな音がして 破断したボルトが落ちていたと報告を受ける。 菅及び解体業者がテントハウスに行き場所を確認。 車両部整備課 [REDACTED] に連絡し事象の説明。 [REDACTED] に来場頂き顛末を報告。スカイライナーのキズを見つける為 車体を確認。 キズが見当たらなかったが、状況報告を [REDACTED] へ入れる。 飯塚部長へ報告。 テントハウスの2線奥のスカイライナーの屋根周辺に凹みを発見したが 近くで確認することができず、運行前に検査ピットに入れ近くで確認する こととなる。 検査ピット内で脚立より凹みを確認。暗い為断言出来ないが、塗装の割れが 最近の様であること、また凹みの大きさがナットの大きさに近いことを確認。 当該スカイライナーが明日、窓清掃の為車両基地に戻る予定だった為 改めて翌日確認することとなった。 現地解散し、翌日集合し確認を行うことになる。	京成電鉄株式会社本社にて [REDACTED] に顛末を説明。 再発防止対策を報告。 午後、車両基地内で車両の点検を行ったのち再度報告を行うこととなる。 [REDACTED] と合流し、検査ピット内にて該当スカイライナー凹みを 屋根上より確認し大きさ、キズの新しさから断定する。 また、テントハウス内のスカイライナーにも小規模のキズがあり跳ね返った ボルトが当たった可能性がある為、修理を行うこととなる。 [REDACTED] にキズの報告、修理の報告を行う。 飯塚部長に報告を行う。 [REDACTED] より、スカイライナーの凹みについては修理が完了したと報告を 受ける。

原因: 破断したボルトを確認したところ、プレース及び細材に使用するボルトであった。

ボルト1本で固定している部材があり、ボルトで繋結していたプレース等鉄骨が曲がった際に  
ボルトに負荷がかかり破断、上空に飛来したと思われます。

対策: 屋根を撤去するスパンのプレース及び細材の鉄骨は予め高所作業車で手壊しを行ったのち  
当該スパンの屋根、梁類を機械にて切断、解体を行います。

一度に全てのプレース等を撤去することなく、都度スパンごとにプレース等の解体を行うことで  
屋根の倒壊等が発生しない様管理を行います。

また、機械での解体では部材を引っ張ることはせず、切断して解体を行います。

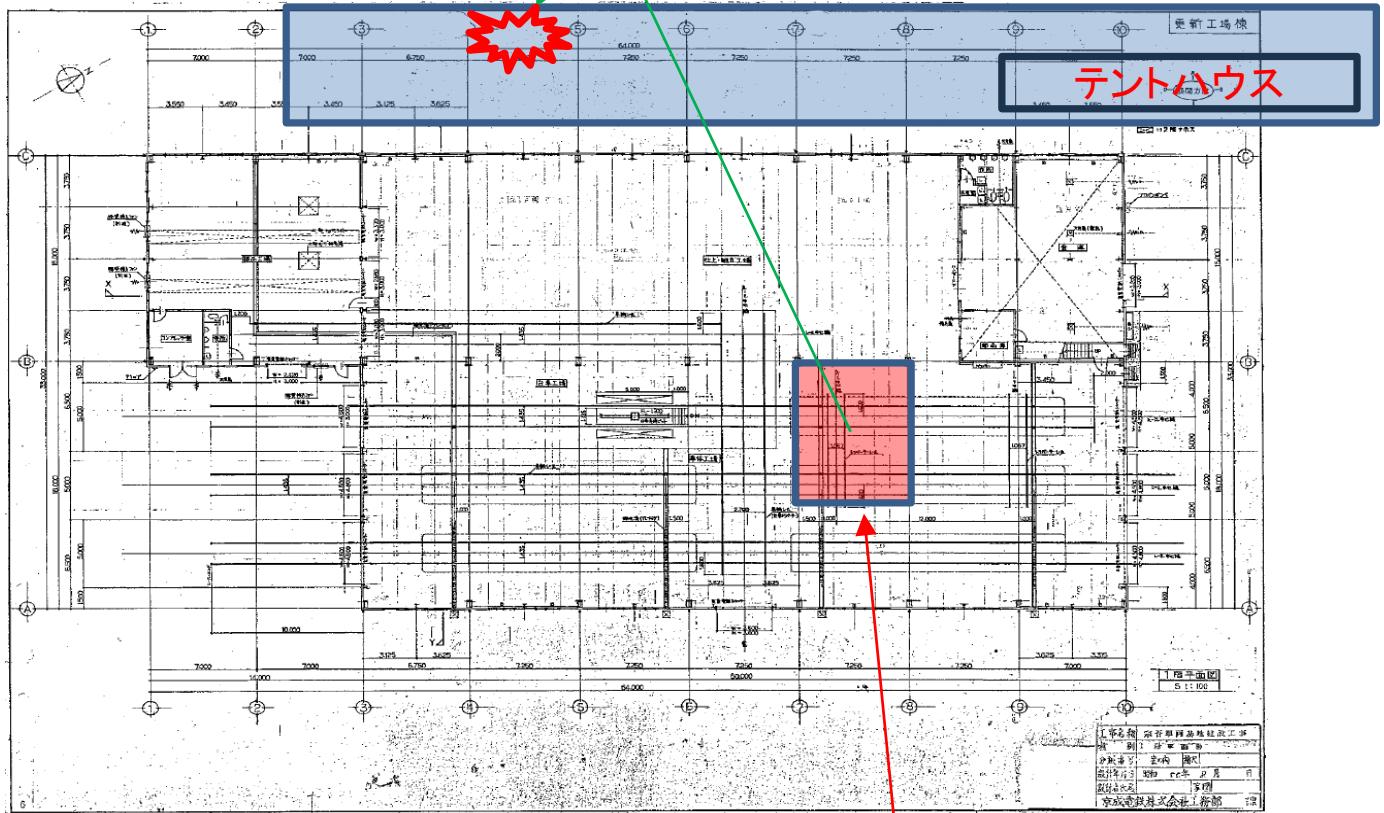
ボルト飛来場所

スカイライナー

跳ね返り落ちる

約30m飛来

テントハウス



屋根解体状況

屋根撤去場所

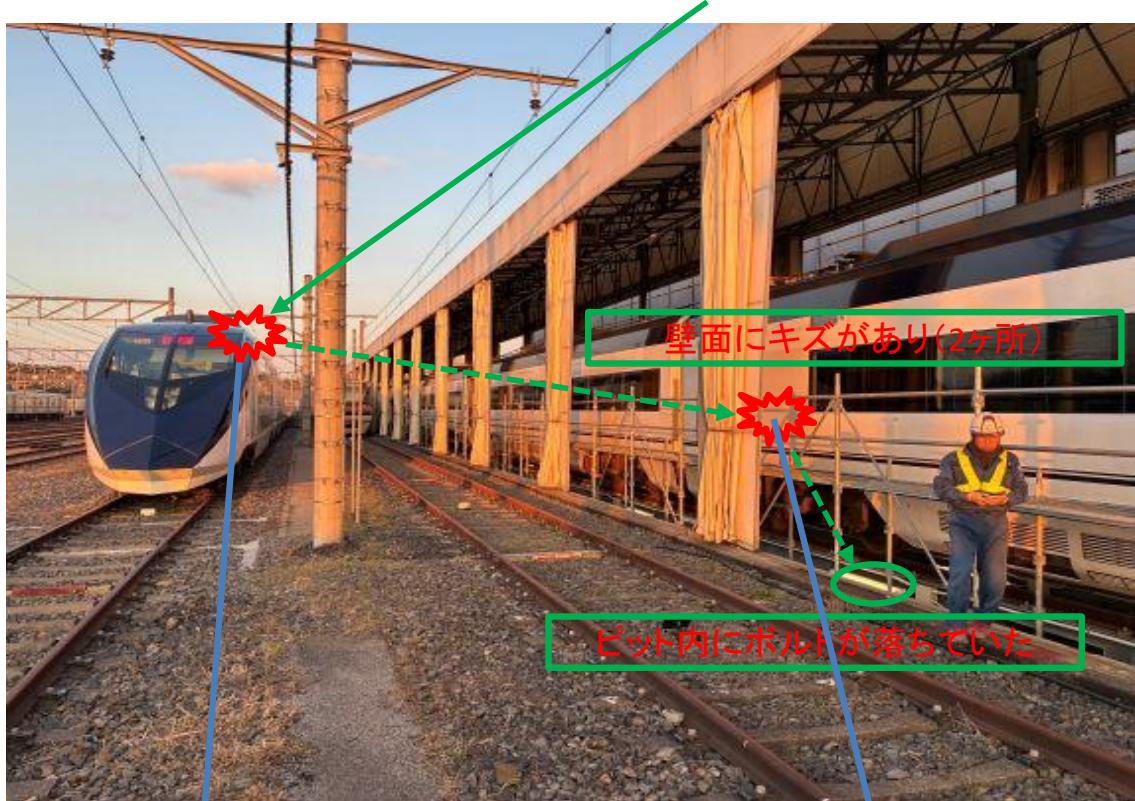


ボルト飛来推定

破断ボルト M12  
※ブレースや機械排気用  
小梁に使用 約75g



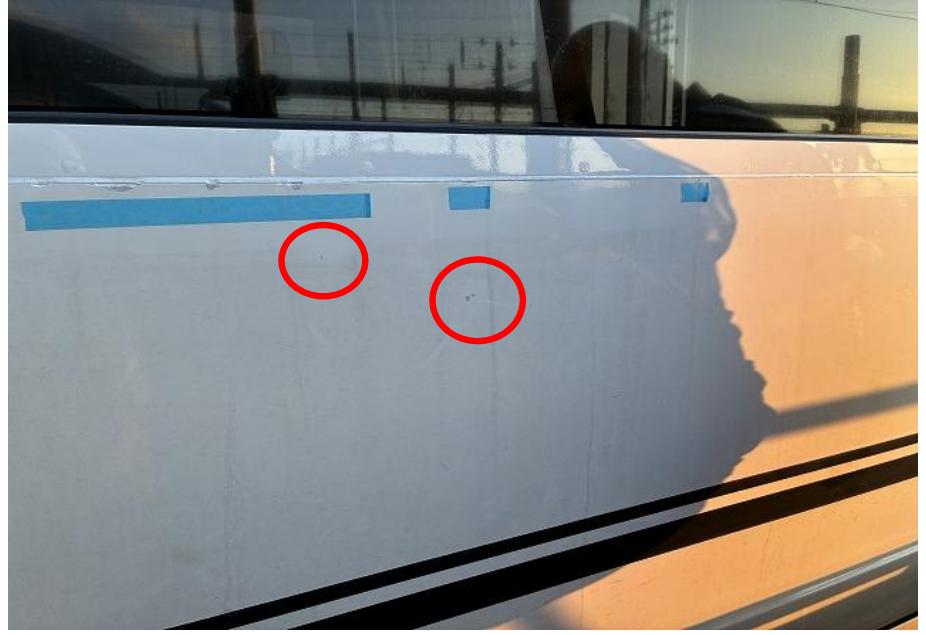
## 破断ボルト飛来推定



スカイライナー凹み



スカイライナーキズ



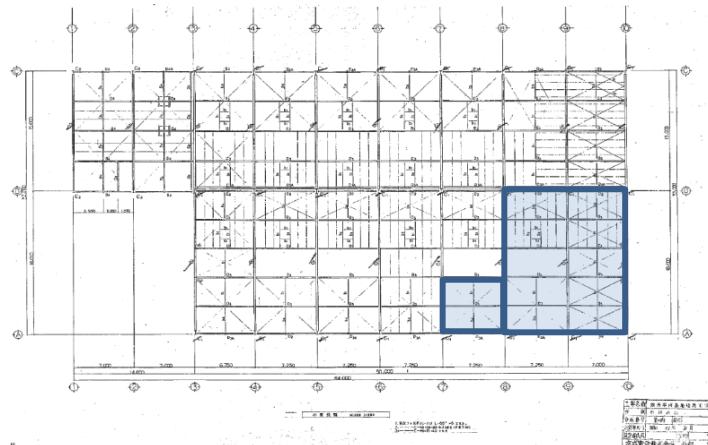
12月18日午後確認時 スカイライナー凹み



キズの状況については車両部 [REDACTED]、京成車両工業 [REDACTED] に  
確認を頂き、運行前に修理を行って頂く事となりました。

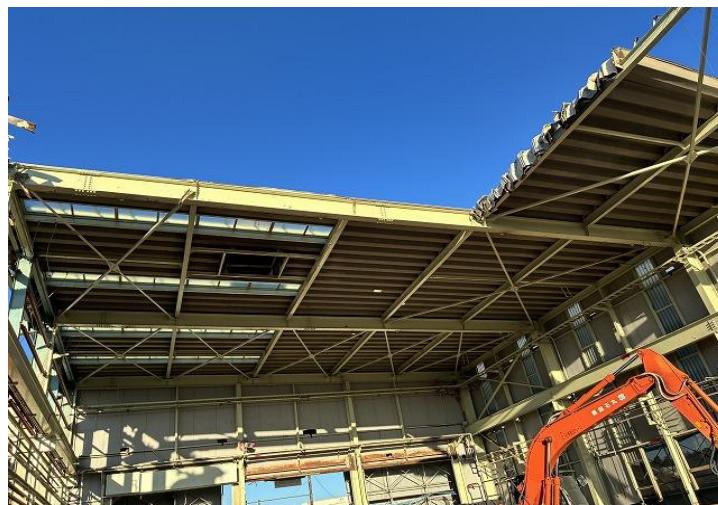
12月18日16:30、[REDACTED] より修理完了の報告を頂きました。

## 今後の解体手順

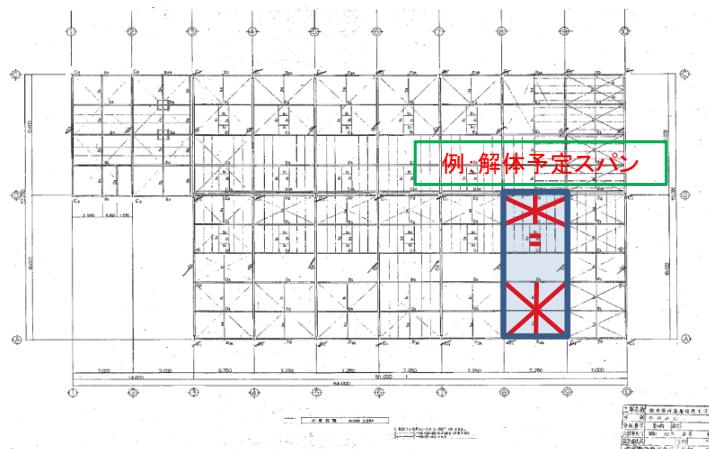


### 1. 現状屋根範囲

- ・残り2スパン半屋根が残っています。

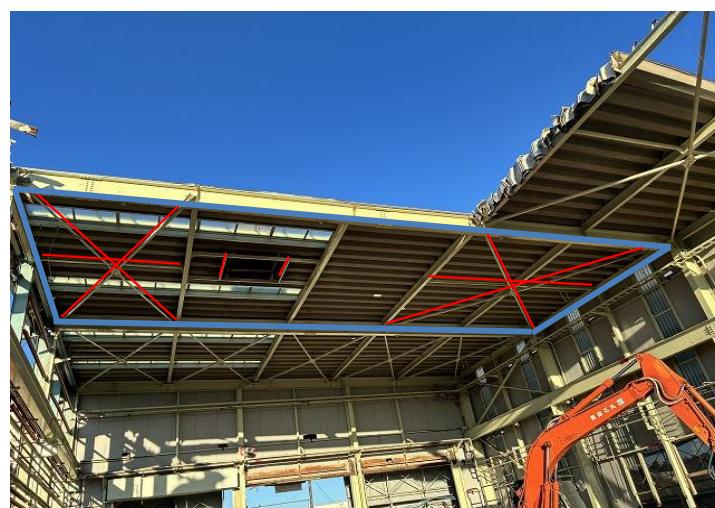


現状屋根写真



### 2. 細物鉄骨材の手壊し

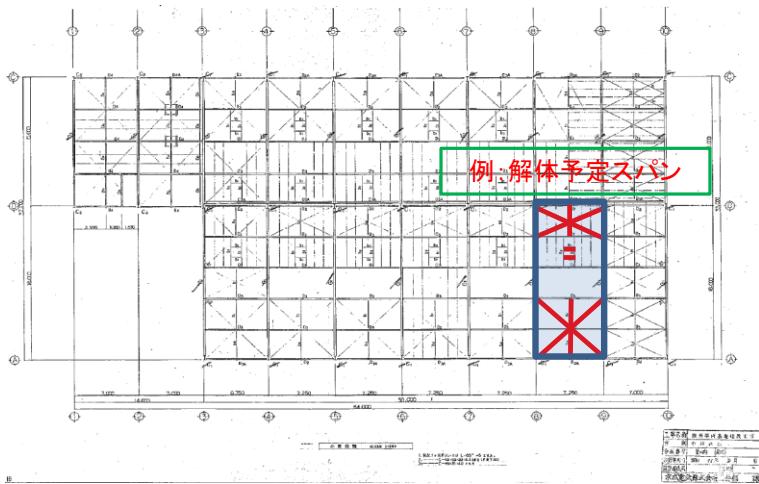
- ・各スパンごとに先行してブレース等や細物鉄骨を高所作業車を使用し手壊しにて撤去を行います。  
(M16以下及びボルト1本で固定している鉄骨材)



凡例

■ 解体スパン  
— 手壊し該当部材

## 今後の解体手順



### 2.細物鉄骨材の手壊し

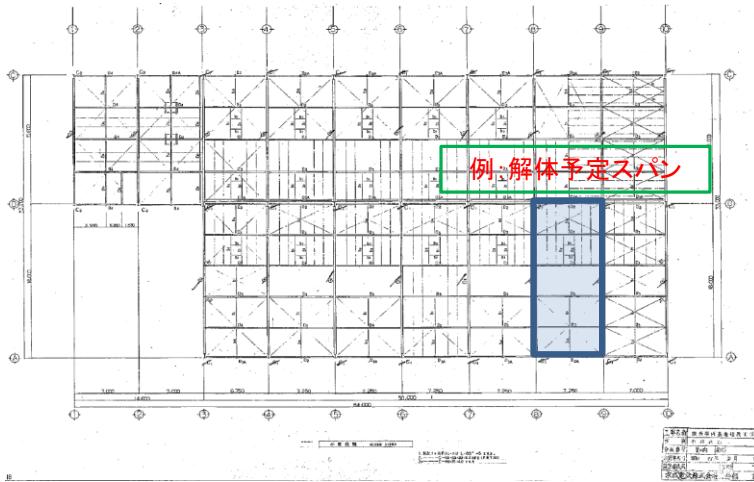
- 各スパンごとに先行してブレース等や細物鉄骨を高所作業車を使用し手壊しにて撤去を行います。  
(M16以下及びボルト1本で固定している鉄骨材)



#### 凡例

- 解体スパン
- 手壊し該当部材

## 今後の解体手順



### 3. 機械にて解体

・各スパンごとに屋根・梁材の切断、撤去を機械にて行います。



### 機械での解体作業例

機械(バックホウ)では引っ張って解体を行なうことはせず、切断して解体を進めて行きます。